

サー・マイケル・マーモット世界医師会長講演

健康の社会的決定要因

“Social Determinants of Health”

2016年9月5日（月）17時～18時

日本医師会館大講堂



Sir Michael Marmot

世界医師会（World Medical Association: WMA）会長

University College of London（UCL）疫学教授

疫学研究

長年に亘る健康の社会格差、健康の不平等に関する疫学研究における多大なる功績が称えられ、2000年、エリザベス女王より“Sir”の称号が授与された。

2005年、WHOの健康の社会的決定要因（Social Determinants of Health: SDH）委員会議長に就任。2008年8月、同委員会報告書“Closing the Gap in a Generation”を公表し、不健康の社会的要因を取り上げ「原因の背景となる原因」に取り組むために必要なエビデンスの収集を支援した。2008年11月、イギリス政府の要請により健康の不平等調査委員会議長として健康の不平等に対する政策策定に努め、“Fair Society, Healthy Lives’ in February 2010”をとりまとめた。

日本人の長寿についての研究

「1989年、私は、日本を訪れた後、「なぜ日本人は長生きをするのか」という質問を提示した。」「おそらく、私が知る他の先進工業国よりも小さな収入格差が日本人の長寿に役割を果たしていると結論するのは興味深いことであった。」「それから約20年、経済バブルがはじけ、収入格差が増大し、・・・、日本の健康状態の悪化を安易に想像することができよう。しかし、実際にはそれは起こっていない。」ニホンサン（NiHonSan 研究）、」ホワイトホール研究、富山における疫学調査から日本人の長寿について分析している。

出所：「日本の長寿についての再考」保健医療科学、56（2）：2007

世界医師会活動（WMA）

2009年10月WMA理事就任。2010年～2011年にイギリス医師会長を務め、2010年10月WMAバンクーバー総会に「健康の社会的決定要因に関するWMA声明案」を提出。2011年4月社会医学委員会委員長に選出され、同年10月WMAモンテヴィデオ総会において各国医師会の意見を集約し同声明案を採択に導いた。声明では、「WMAは各国医師会とともに会員に対するSDHの教育と情報伝達に協力してあたり、早期の健康障害の根本にある原因を最小限にするための適切な措置を講じるよう各国政府に強くはたらきかけるべきである。イギリスではSDHの活動を通じた健康格差の減少を中核とした公衆衛生白書を政府が発表し、幾つかの地域ではそれを元に行動計画を策定している。一般診療における活動分野を超えた協力が人々の生活の質を改善し、結果として健康格差を減少させたという良い例も複数ある。WMAは会員から優れた実践事例を収集し、この分野における更なる取り組みを促進していくべきである」としている。

世界医師会長就任

2014年10月WMAダーバン総会において次期会長に選出され、2015年10月WMAモスクワ総会においてWMA会長に就任。SDHをテーマとした就任挨拶は、総会参加者に感銘を与え、日本医師会Websiteに掲載した日本語版には2016年1月から3月までに約7,000件のアクセスが集中し、WMA会長が貧困と不公平による健康の社会的格差に言及したことが大きな関心を集めた。下記は寄せられたメッセージの一部である

「大変励まされました。学生にも読んでもらいたい。」

「すごい迫りに圧倒されました。世界医師会会長の就任演説とは信じられない。」

「貧困・不平等に取り組むことは医師としての主要な課題であることを励まされるメッセージである」

（日本語訳）<http://dl.med.or.jp/dl-med/wma/Sir-Michael-Marmot-Inaugural-Speech.pdf>

UCL Institute of Health Equity（IHE）

IHEチームでは、WMA会長就任を機に医師や医療専門家の役割をさらに広く推し進め、SDHを追求して「健康の公平性のために：医療専門家の役割」作成の基盤づくりをする予定である。2015年3月、WMA、カナダ医師会と協力し、「医師と各国医師会の役割・SDHと健康の公平性を推進するために」をテーマに国際シンポジウムを開催。WMA総会での就任演説では「医療専門家ほど健康について問題にする人は他にいない。医療の声は社会のさまざまな部門にわたる政策の中に反映されるべきのみならず、SDHはますます大きな医師の関心の的とならねばならない。われわれは健康の改善と健康の公平性を達成するために大きな仕事を達成しなければならない。それは大いに倫理上の関心事である。」としている。Michael Arthur（UCL学長）は、「これはきわめて意義のあることである。マーモット卿の業績が非常に高いレベルで認識されてゆくことを願っている」としている。

<https://www.ucl.ac.uk/news/news-articles/1014/221014-marmot-wma-president#sthash.klr4qmEi.dpuf>

（医師の先生方へ）

本講演会を受講される医師の先生方に、日本医師会生涯教育カリキュラム「5 心理社会的アプローチ」1単位を付与させていただきます。単位取得を希望される場合には、当日受付での出席確認と医籍登録番号のお申し出が必要となります。医籍登録番号は、国際課宛に（jmaintl@po.med.or.jp）メールでお知らせいただきますよう、お願いいたします。